

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （マネジメント）	氏名	埜 本 一 雄
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論 文 題 目			
総合商社機能の本質に関する研究—マーケティングの観点から—			
論文審査担当者			
主 査	教 授	村 松 潤 一	印
審査委員	教 授	椿 康 和	印
審査委員	教 授	星 野 一 郎	印
〔論文審査の要旨〕			
1. 概要			
<p>本論文は、わが国に固有な業態として知られている総合商社をマーケティング研究の立場から新たに提示した枠組から捉え直し、その本質的機能がビジネス創造にあることを明らかにしたものである。即ち、企業と顧客（企業）における共創関係に着目し、そこでどのような共創が行われているかを詳細に分析し、その本質が新たなビジネスの創造にあることを事例研究によって示したものである。</p>			
2. 構成と内容			
<p>本論文は全 11 章から構成されている。最初に研究の背景、問題意識、研究目的、論文構成が述べられたあと、第 1 章では総合商社の歴史的経緯が明らかにされた。第 2 章の先行研究レビューでは総合商社の本質的機能を巡る、経営史や商学をはじめとする多岐に亘る文献が取り上げられ、これまで理論的枠組をもって分析されることはなく、総合商社を先験的に卸売機能の遂行者としてみる研究がほとんどであり、たとえビジネス創造者として捉えても理念的主張に留まってきたことが指摘された。第 3 章では本論文における理論的枠組として示された顧客と共創する企業システムが 7 つの要素（顧客、創造された市場と価値、ビジネスシステム、経営資源、機能の統合、収益モデル、組織文化）から成ることが明らかにされ、事例研究の方法と対象を述べた第 4 章を経て、第 5 章から第 8 章まで、戦前、高度経済成長期、そして、2000 年以降という時代区分のもと、また、取引対象をモノとサービスに区分し、4 つの事例研究が行われた。具体的には、総合商社による綿製品の輸出、国内化学品の商権ビジネス、中国における医療材料の流通効率化事業、アジアにおける医療サービス事業が詳細に分析された。その結果、第 9 章では総合商社の本質的な機能がビジネス創造にあることが明らかにされ、また、その背景として、総合商社の収益構造が営業利益から事業投資利益に移っていることがあげられた。即ち、そこにおいては、卸売機能と営業利益、ビジネス創造機能と事業投資利益という</p>			

関係が見出されるのである。そして、最後にこの収益構造の変化が実は連結会計の仕組みと深く結び付いていることが指摘された。

3. 評価

総合商社をどのように捉えるかについて、これまで多くの研究領域から様々なアプローチがなされてきたが、それらのほとんどは卸売業者としての総合商社論に留まっており、それは総合商社論自体の停滞を意味していた。そうした中、本論文はマーケティング研究の立場からビジネス創造者として総合商社を明確に位置づけ、また、ビジネス創造の全体構造も顧客（企業）との共創関係に分析の焦点を置くことでその本質を明らかにした。それは、膨大なまでの先行研究の詳細なレビューによる課題導出、課題解決のための要件の熟考と事例研究に向けた理論的枠組の構築、緻密なインタビュー調査、結果の的確なる解釈からもたらされたものである。特に連結会計のもと本社と子会社の関係を機能的に捉えることで収益モデルの変化を浮き彫りにした点は注目すべきことであり、また、顧客（企業）との共創関係を軸とした企業システムという理論的枠組の独自性については、すでに関連する学会等で高く評価されている。

このように本論文は、マーケティング研究における新たな視点である共創概念を用いて総合商社の本質的機能を明らかにしたものである。それは、これまでの総合商社研究に大きな一石を投じるものであり、総合商社研究の歴史を書き換える可能性を持っている。今後は、顧客（企業）との共創関係のさらなる精緻化が期待されている。

以上、審査の結果、本論文の著者は、博士（マネジメント）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。